

第4学年 体育科学習指導案

体育，保健体育科研究室

1 単元名 「マット運動」(7時間計画)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

マットを使って、いろいろな回り方に挑戦することが楽しい運動である。単独の技や、その連続、複数の技の組み合わせなどに挑戦して楽しめる運動である。

(2) 子どもから見た特性

A 運動の特性に触れる楽しさ体験の状況

事前のアンケート調査によると、マット運動が「とても好き」「好き」と答えた子どもは64%で、「できる技がたくさんあること」を主な理由に挙げている。一方で、「あまり好きではない」「嫌い」と答えた子どもは36%であり、「できる技が少ないこと」や「体が痛くなること」を挙げている。この結果から、これまでの学習経験をもとにした子どもたちのマット運動に対する関心は高いとは言えない。しかし、今回の学習にあたって、「マット運動でどんな事ができるようになりたいですか」と質問したところ、94%の子どもたちが「新しい技ができるようになりたい」と答えていることから、楽しさを阻害している原因を取り除くことができれば、挑戦意欲は高まるだろうと予想される。

このことから、マット運動の楽しさに触れさせるためには、痛さを軽減させる場や用具を工夫させながら、できる技を1つでも多く増やすことが重要だと考える。また、運動が得意な子の中には、「活動量が少ないこと」を心配する意見もあり、発展技への広がりやできるようになった技での楽しみ方を紹介する必要性も感じられる。

B 技術の習得状況

子どもたちは、3年生までのマット運動において、回ったり支持したりする動きを経験している。その経験を踏まえ、4年生において取り組むマット運動の技についてアンケートを行ったところ、以下のような結果が得られた。

	回転系					倒立系				
	前転	とび前転	開脚前転	後転	開脚後転	側方倒立回転	壁倒立	補助倒立	頭倒立	ブリッジ
できる	31	6	19	23	9	11	10	8	2	19
知っている	2	16	10	10	13	10	7	5	12	10
知らない	0	11	4	0	11	12	16	20	19	4

回転系の技のうち、前転と後転については、全員が知っている。中でも、前転においては、現時点でほとんどの子どもができていないことから、背中を丸め頭を中に入れて回転する感覚は身につけていないのではないかと期待される。しかし、後転は10人が「知っている」と答えており、できるようにさせるためには回転を加速させる技術指導を要すると考える。また、とび前転や開脚前転、開脚後転になると、「知らない」と答える子どもも多く、技のイメージをもたせながら、柔軟性や高さ感覚に触れさせる必要があると感じる。

一方、倒立系の技については、子どもたちの認知度が低く、これまでにあまり経験したことがない動きだと予想される。したがって、倒立系の技に挑戦する子どもたち

には、逆さ感覚や腕支持感覚に十分つかませてから、取り組ませていきたいと考える。

C 学び方に関する学習状況

1学期に行った「とび箱運動」では、単元の導入で提示した計画表を見ながら、めあて①「できる技で楽しむ」、めあて②「できそうな技に挑戦する」という進め方で学習した。その際、自分のめあては、教師から提示された例を参考にして、自分の実態にあったものを選んだり、自分なりの言葉に置き換えたりして、学習ノートに書けるようになっている。また、準備・片付けについても、自分たちで役割を分担しながら、手早く安全に行うことができていた。さらに、子どもたち同士は、めあて①の楽しみ方を工夫して一緒に活動したり、めあて②で励ましの言葉を中心にして声をかけ合ったりして、積極的な関わりが見られた。

その一方で、めあてを解決するための効果的な場や用具の工夫、補助の仕方を、準教科書やカード類を見て自分たちで工夫することができている子どもは少ない。また、子どもたち同士の声かけも、自分が見つかったコツや友だちの技を見比べて気付いたことをアドバイスし合って学習するまでには至っていない。

3 学習を進めるにあたって

本単元では、子どもたちが運動の楽しさや喜びをより味わっていけるように、マット運動に必要な感覚を高めさせた上で、自己の能力に応じた基本的な回転技や倒立技をできるようにさせたい。また、個人種目であるマット運動の中に、友達との関わり合いを促すことで、よりよく課題を解決させたり、お互いのよさを認め合って成就感を味わわせたりするようにしたい。そのために、以下のような支援を行っていく。

(1) 学習過程

第1時は、子どもが自分の力を知り、学習の見通しをもてるようにするための時間と位置づける。まず、単元計画表を提示しながら、基本からじっくりと活動できる学習の進め方になっていることを理解させ、苦手な子どもに安心感をもたせたい。一方で、得意な子にも、技のメニュー表を提示しながら、組み合わせや連続、発展技にも挑戦できることを理解させ、期待感をもたせたい。次に、教師や得意な子どもが模範を示して、技のイメージをもたせながら、今の自分がどれくらいできるのか確かめる活動を行う。「できる技」「できそうな技」が分かったら、次時からのめあての設定に役立てるようにする。

第2時以降は、マット運動に必要な感覚を高めるための体づくり運動と、自分のめあてを解決するための活動（めあて学習）を平行して行っていく。体づくり運動では、逆さ感覚・柔軟性・回転感覚・腕支持感覚・高さ感覚・リズム感覚・バランス感覚が高まるメニューを提示する。その中から、単元を通して3つ種類以上経験するようにして、いろいろな感覚を高め、自分のめあてと関わりのある活動になるようにする。めあて学習では、「友達と教え合い」「学習資料の活用」「場や用具の工夫」「補助」など練習方法を工夫して1つでも多くの技を獲得させたり、「フォーム」「連続」「組み合わせ」「友達と調子を合わせる」などの楽しみ方でできるようになった技の出来映えを良くさせたりする。

(2) 支援

① 実態把握

- 一人一人の実態を把握して、学習の計画を立てるために、単元に入る前に学び方や技術の習得状況、学習に寄せる思いについてアンケートをとる。

② 学習ノート

- 単元全体を見通して学習が進められるようにするために、第1時から第7時までの学習の足跡が1枚の紙面にまとめられるような学習ノートを準備する。
- より具体的なめあての設定や振り返りができるようにするために、めあての例を提示する。また、教師からのコメントを入れて、技術的なアドバイスをしたり、練習方法の紹介をしたりする。
- 毎時の学習ノートをもとに子どもの変容を確かめ、支援の計画を立てる。

③ 活動の場や用具，グルーピング

- ・子どもたちの苦手なポイントや足りない感覚を補い，痛さや恐怖心を軽減して，できる感覚を味わわせながら，段階的に自力解決できるようにするために，場や用具の工夫の仕方を紹介する。
- ・課題を共有して子ども同士の関わり合いが増えるように，体づくり運動の種類や挑戦する技別のグループを編成する。

④ 声かけ

- ・体づくり運動においては，自分のめあてとなる技とのつながりを考えさせ，つまずきが解決するようなポイントを意識して取り組むように助言する。
- ・めあて学習では，補助の仕方や，技のポイントなどを助言する。また，できるようになった技の出来映えを良くする活動では，手先足先まで注意を払ったり，スムーズなつながぎを考えたりするように助言する。
- ・子ども同士の関わり合いを活発にするために，友だち同士と一緒に楽しんだり，お互いの技を見合ったりする学習の仕方を促す声かけを行う。
- ・子どもの意欲を向上・持続させるために，どんな小さな伸びでも見逃さず賞賛したり，がんばっている子に対しては励ましたりする声かけを行う。

⑤ 学習資料

- ・この単元で取り組む技を集めた「マット運動チャレンジカード」は，技の種類や系統性を考えて整理し，子ども達がめあてとなる技を決めやすくなるようにする。
- ・逆さ感覚，柔軟性，回転感覚，腕支持感覚，高さ感覚，リズム感覚，バランス感覚を高める体づくり運動のメニューカードを準備し，自分に合った運動が選択できるようにする。
- ・準教科書やポイントカードをグループごとに準備して，自分の動きと比べて良い所やつまずきに気付けるようにする。
- ・段差や坂道，細いマットを利用した場や用具の工夫の仕方を掲示物を使って紹介し，自分のつまずきに合った場の工夫が考えられるようにする。

4 学習のねらいと道すじ

(1) 学習のねらい

マット運動に必要な感覚を高めながら，自分の能力に合わせて挑戦の仕方や楽しみ方を工夫して，1つでも多くの技を獲得することができる。

(2) 学習の道すじ

体づくり運動 マット運動に必要な感覚を高めよう。

めあて学習 できそうな技に挑戦したり，できる技で楽しんだりしよう。

5 学習と支援の計画

	1	2	3	4	⑤ (本時)	6	7																					
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の進め方や安全の理解して、次時からの意欲を高めている。 ○ できる技やできそうな技を調べて、自分に合っためあてを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体づくり運動において、自分のめあてにあった活動が決められる。 ○ めあて学習において、できそうな技の中から自分の力に応じた技を選び、進んで練習に取り組んでいる。 ○ めあて学習において、できそうな技のポイントと自分のつまずきを意識して、練習方法を工夫している。 ○ 体づくり運動で感覚を高め、易しい場や のもとでの基本的な回転技、倒立技ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の行う体づくり運動のポイントやめあてとなる技とのつながりを理解している。 ○ めあて学習において、できる技の組み合わせや連続に取り組んだり、友だちと関わったり、たくさん体を動かしている。 ○ めあて学習において、連続や組み合わせで技のつながりを意識したり、友だちとかわりながら技の出来映えを意識したりする楽しみ方を工夫している。 ○ 体づくり運動で感覚を高め、自己の能力に適した基本的な回転技、倒立技ができるようになる。 																									
0 5 20 40	<p>1 学習の見直しをもつ。 ○ 単元計画表を見て単元全体の流れとねらいをつかむ。</p> <p>2 めあての確認と学習の準備をする。 ○ 本時のめあてを知る。 ○ 財産調べについて知る。 ○ 活動場所を知る。 ○ 準備運動をする。 ○ 用具や場の準備をする。</p> <p>技調べをして、これから取り組みたい技を決めよう。</p> <p>3 財産調べをする。 ○ 技の出来具合を調べ、財産表に記号を記入する。</p> <p>〈支援〉 ・ 教師や得意な子どもが実際に試技してポイントを説明することで、技のイメージをもたせる。 ・ 必要に応じて用具を紹介して、恐怖心や痛さを軽減させる。 ・ 技の出来具合は、友だち同士で見合ったり、教師の判断をもとにしたしたりして、チェックできるようにする。</p> <p>4 次時からの学習の計画を立てる。 ○ 体づくり運動→めあて学習という1時間の学習の進め方を知る。 ○ 財産調べをもとに、めあてとなる技と練習方法を定める。 ○ めあてに合わせた体づくり運動を選択する。</p> <p>めあてを解決するための練習方法を紹介します。 ・ 回転系と倒立系ごとに体づくり運動のメニュー表を提示する。</p> <p>5 学習のまとめをする。 ○ 自分のめあてと意気込みを発表する。 ○ 次時の予告を聞く。 ○ 協力して後片付けをする。</p>	<p>1 学習の準備とめあての確認をする。 ○ グループごとに用具の準備や場づくりをする。 ○ 準備運動をする。 ○ 今日のめあてと活動する場を確認する。</p> <p>2 体づくり運動をする。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">回転系</th> <th colspan="2">回転系・倒立系</th> <th colspan="3">倒立系</th> </tr> <tr> <th>高さ感覚</th> <th>回転感覚</th> <th>逆さ感覚</th> <th>柔軟性</th> <th>腕支持感覚</th> <th>リズム感覚</th> <th>バランス感覚</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ いろいろジャンプ ・ 台の上から前転 ・ 逆立ちバツタン</td> <td>・ だるま転がり ・ ゆりかごジャンケン ・ サイドローリング</td> <td>・ 動物歩き ・ カエルの足うち ・ 木馬ジャンプ ・ 三点支持</td> <td>・ アザラシ ・ ささぶね ・ ころりんアンテナ ・ ころりんボール渡し ・ ペアストレッチ</td> <td>・ 手押し車 ・ 腕支持リズムジャンプ ・ 腕立て旋回 ・ 壁登り倒立トンネル</td> <td>・ 正座でジャンプ ・ バンザイスキップ ・ 川跳び ・ 足かえ逆立ち ・ フープくぐり</td> <td>・ 閉眼ウォーク ・ かかしバランス ・ ケンケンバランス ・ V字バランス ・ バランスボール</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈支援〉 ・ 系統別のメニュー表を提示し、自分のめあてにあった適切な体づくり運動を選択させる。 ・ めあてとなる技につながるように、ポイントを意識させながら活動させる。 ・ 友だちと関わらせたり、教師も子どもと一緒に活動したりして、めあてを解決する活動に向けて心と体の回路をひらく。(スイッチを入れる)。</p> <p>3 めあてを解決する活動をする。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <p>できそうな技に挑戦する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を活用する。 ○ 友だち同士で見合う、教え合う。 ○ 場や用具を工夫する。 ○ 補助し合ってできる感覚をつかむ。 </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <p>〈支援〉 ・ 友だちや教師の技と比較しながら、課題に気付かせる発問を積極的に行う。 ・ ポイントカードを使ってお互いの技を見合ったり、自分なりのコツを教え合ったりする子ども同士の声かけを広める。 ・ グループごとに適切な場の作りかえ方、用具の使い方、補助の仕方を積極的に指導する。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ フォームを美しくする。 ○ 単技の連続をする。 ○ 複数の技を組み合わせる。 ○ 友達と調子を合わせる。 </td> <td style="text-align: center;"> <p>〈支援〉 ・ 技のポイントを意識させ、友だち同士で見合いながら、でき栄えを確認するように助言する。 ・ つながりのスムーズな組み合わせを紹介し、広める。 ・ 自分にあった楽しみ方ができている子やグループを賞賛する。 ・ 上達の早い子には、発展技を紹介して力を伸ばす。</p> </td> </tr> </table> <p>できるようになった技で楽しむ活動</p>	回転系		回転系・倒立系		倒立系			高さ感覚	回転感覚	逆さ感覚	柔軟性	腕支持感覚	リズム感覚	バランス感覚	・ いろいろジャンプ ・ 台の上から前転 ・ 逆立ちバツタン	・ だるま転がり ・ ゆりかごジャンケン ・ サイドローリング	・ 動物歩き ・ カエルの足うち ・ 木馬ジャンプ ・ 三点支持	・ アザラシ ・ ささぶね ・ ころりんアンテナ ・ ころりんボール渡し ・ ペアストレッチ	・ 手押し車 ・ 腕支持リズムジャンプ ・ 腕立て旋回 ・ 壁登り倒立トンネル	・ 正座でジャンプ ・ バンザイスキップ ・ 川跳び ・ 足かえ逆立ち ・ フープくぐり	・ 閉眼ウォーク ・ かかしバランス ・ ケンケンバランス ・ V字バランス ・ バランスボール	<p>できそうな技に挑戦する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を活用する。 ○ 友だち同士で見合う、教え合う。 ○ 場や用具を工夫する。 ○ 補助し合ってできる感覚をつかむ。 	<p>〈支援〉 ・ 友だちや教師の技と比較しながら、課題に気付かせる発問を積極的に行う。 ・ ポイントカードを使ってお互いの技を見合ったり、自分なりのコツを教え合ったりする子ども同士の声かけを広める。 ・ グループごとに適切な場の作りかえ方、用具の使い方、補助の仕方を積極的に指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォームを美しくする。 ○ 単技の連続をする。 ○ 複数の技を組み合わせる。 ○ 友達と調子を合わせる。 	<p>〈支援〉 ・ 技のポイントを意識させ、友だち同士で見合いながら、でき栄えを確認するように助言する。 ・ つながりのスムーズな組み合わせを紹介し、広める。 ・ 自分にあった楽しみ方ができている子やグループを賞賛する。 ・ 上達の早い子には、発展技を紹介して力を伸ばす。</p>	<p>4 学習のまとめをする。 ○ 今日学習を振り返って学習ノートを記入する。 ○ 感想を出し合う。 ○ 後片付けをする。</p>
回転系		回転系・倒立系		倒立系																								
高さ感覚	回転感覚	逆さ感覚	柔軟性	腕支持感覚	リズム感覚	バランス感覚																						
・ いろいろジャンプ ・ 台の上から前転 ・ 逆立ちバツタン	・ だるま転がり ・ ゆりかごジャンケン ・ サイドローリング	・ 動物歩き ・ カエルの足うち ・ 木馬ジャンプ ・ 三点支持	・ アザラシ ・ ささぶね ・ ころりんアンテナ ・ ころりんボール渡し ・ ペアストレッチ	・ 手押し車 ・ 腕支持リズムジャンプ ・ 腕立て旋回 ・ 壁登り倒立トンネル	・ 正座でジャンプ ・ バンザイスキップ ・ 川跳び ・ 足かえ逆立ち ・ フープくぐり	・ 閉眼ウォーク ・ かかしバランス ・ ケンケンバランス ・ V字バランス ・ バランスボール																						
<p>できそうな技に挑戦する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を活用する。 ○ 友だち同士で見合う、教え合う。 ○ 場や用具を工夫する。 ○ 補助し合ってできる感覚をつかむ。 	<p>〈支援〉 ・ 友だちや教師の技と比較しながら、課題に気付かせる発問を積極的に行う。 ・ ポイントカードを使ってお互いの技を見合ったり、自分なりのコツを教え合ったりする子ども同士の声かけを広める。 ・ グループごとに適切な場の作りかえ方、用具の使い方、補助の仕方を積極的に指導する。</p>																											
<ul style="list-style-type: none"> ○ フォームを美しくする。 ○ 単技の連続をする。 ○ 複数の技を組み合わせる。 ○ 友達と調子を合わせる。 	<p>〈支援〉 ・ 技のポイントを意識させ、友だち同士で見合いながら、でき栄えを確認するように助言する。 ・ つながりのスムーズな組み合わせを紹介し、広める。 ・ 自分にあった楽しみ方ができている子やグループを賞賛する。 ・ 上達の早い子には、発展技を紹介して力を伸ばす。</p>																											

6 本時 平成21年11月18日(水) 5校時 体育館において

7 本時のねらい

- マット運動の自分のめあてとなる技とつながりのある体づくり運動にをして、必要な感覚を高めることができる。
- できそうな技のポイントを知り、自分にあった練習方法を工夫して、マット運動の技を身に付けることができる。

8 本時学習を進めるにあたって

子どもたちは、単元の始めにできる技とできそうな技を確かめる活動を通して、自分の力を把握している。そして、できそうな技の練習に取り組んで、1つでも多くの技を身につけようとしている。

体づくり運動では、技と体づくりの種類の関係をまとめた表を見て、「回転」「腕支持」「逆さ」「柔軟」「高さ」「リズム」「バランス」という7つの感覚の中から自分にあった運動を選べるようになってきている。実際の運動場面でも、掲示されたメニューカードを参考にしながら、友だちと一緒に楽しそうに取り組む姿が見られた。しかし、友だちとの競争に目が向きすぎて、感覚を高めるための運動であることを意識できていない場面も見かけた。また、自分のつまずきを克服するのに効果的ではない感覚を高めようとしている場合もあった。

めあて学習では、ポイントカードを見て、技のポイントや練習方法を知り、場や用具を工夫しながら練習することができるようになってきた。また、倒立系の技を中心に、友だちと教え合ったり、補助しあったりして練習に取り組んでいる子もいた。しかし、体づくり運動で高めた感覚を生かそうという子どもや、易しい場から普通の場合への切り替えを行っていきこうという子どもは少ない。場や用具を工夫していても、自分で自分の動きをつかむことができずに、要領を得ないまくり返し練習している子どももいた。その結果、2時目から同じ技に取り組んでいて、技を増やすことができていない子どももいる。

そこで、本時では、体づくり運動で高めた感覚を生かして、どの子どももマット運動の技を身に付けていけるように、以下のような支援を行う。

- 感覚が高まる体づくり運動になるように、教師が各グループで一緒に活動したり、感覚を意識させるような声かけを行ったりする。
- 自分のつまずきに対して効果的な感覚づくりができるように、体づくり運動の内容が適切でない場合は指導を行い、変更させる。
- めあて学習で取り組む技については、子どもの力と獲得のしやすさを考えて選択の際の助言をする。
- 工夫した場で練習したら普通の場合でもできるように、段差を減らしたり、坂を緩やかにしたりする方法を助言する。また、ある程度できた子どもには、連続・組み合わせコースを紹介する。
- 感覚を高めて、技を身に付けた子どもを紹介し、感覚を生かした練習をするように助言する。
- 自分の動きを客観的にとらえさせ、高めた感覚が生かされているか確認できるように、友だち同士で見合ったり教え合ったりする練習の仕方を紹介したり、グループでは見合う視点を与える発問をしたりする。

9 準備

マット、細いマット、ソフトマット、跳び箱、踏み切り板、平均台、学習ノート、ポイントカード、体づくりのメニュー表、ボール、フラフープ、ゴム紐、手足の目印、「ここを見て」カード

10 本時の展開 (5 / 7)

学 習 活 動 と 内 容	支援内容 ◎全体 ○グループ ☆個人
<p>1 学習の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 用具の準備や場づくりをする。 ○ 準備運動をする。 <p>2 体づくり運動をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> マット運動に必要な感覚を高めよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の内容と場の確認をする。 ○ 必要な感覚を高める体づくり運動をする。 <p>〈感覚の種類〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回転感覚 ・腕支持感覚 ・逆さ感覚 ・柔軟感覚 ・高さ感覚 ・バランス感覚 ・リズム感覚 <p>3 めあて学習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> できそうな技に挑戦しよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のめあてと活動の場を確認する。 <p>〈挑戦の仕方の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高めた感覚を生かす ・友だち同士の教え合い ・場や用具の工夫 ・ポイントカードの活用 ・補助 ・モデリング ・教師の声かけ <p>5 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の学習を振り返って、学習ノートに記入する。 ○ うまくいった楽しみ方や練習方法を発表し合う。 ○ 後片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 友だちと協力して安全にできているか確認する。 ◎ 感覚を高める体づくり運動になるようにできるようにになりたい技と感覚のつながりを意識させる。 ◎ 自分の活動内容と場所を確認させるために活動の場ボードを確認させる ○ 必要な用具は、安全に気を付けて、準備するように説明する。 ○ 各グループを巡視しながら、楽しむだけでなく、感覚を高める活動になるように声かけをする。 ☆ 体づくり運動の仕方が分からない子どもには、教師と一緒に活動して、正しい活動内容を知らせる。 ◎ 工夫した場でできる感覚をつかんだら普通の場合に近づけて練習できるように、段差を減らしたり、坂を緩やかにしたりする方法を助言する。また、連続や組み合わせ、フォームのコースを紹介する。 ◎ 感覚を生かした練習ができるようにするために、感覚を高めて技を身に付けた子どもを紹介する。 ◎ 自分のつまずきに合った適切な練習方法を選ぶようにするために、学習ノートの教師からのコメントや教室のポイントカードを確認させる。 ○ 自分の動きを客観的にとらえさせ、高めた感覚が生かされているか確認できるように、友だち同士で見合ったり、場や用具を工夫したりする練習の仕方を紹介し、グループでは見合う視点を与える発問をする。 ○ 前時に停滞が見られたグループの練習方法がつまずきの克服につながるようにするために、用具の使い方や技のポイント、補助の仕方などを助言する。 ☆ 挑戦意欲を高めさせるために、もう少しできそうな子どもやできた子どもを賞賛する。 ◎ しっかりと振り返りができるように、振り返りの観点を与える。 ◎ 次時につながるめあてを設定できるように、良かったことや課題を生かすように助言する。 ◎ 取り組みの良かった子やグループを賞賛し、全体に広め、意欲化を図る。